

## D I ニュース

薬剤部 薬品情報係

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	ミンクリア内用散布液 0.8%	市販直後調査 平成23年1月～平成23年7月
(英名)	MINICLEA	
(規格・含有量)	1 シリンジ(20mL)中 日局メントール 160mg を含有	
(一般名)	メントール製剤	
(メーカー名)	日本製薬	
【薬価収載日】	2010年12月	
【薬価】	858.00 円/1筒	
【薬効コード】	87799	
【薬効分類名】	胃蠕動運動抑制剤	
効能・効果	上部消化管内視鏡検査における胃蠕動運動の抑制	
用法・用量	通常、本剤 20mL(メントールとして 160mg)を内視鏡の鉗子口より胃幽門前庭部に行きわたるように散布する。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	-	
副作用	下痢, 血中アミラーゼ増加(1.7%)など	

(薬品名)	ビビアント錠 20mg	市販直後調査 平成22年10月～平成23年4月
(英名)	Viviant Tablets 20mg	
(規格・含有量)	1 錠中バゼドキシフェン酢酸塩 22.6mg(バゼドキシフェンとして 20mg)を含有	
(一般名)	バゼドキシフェン酢酸塩錠	
(メーカー名)	ファイザー	
【薬価収載日】	2010年9月	
【薬価】	132.20 円/1錠	
【薬効コード】	873999	
【薬効分類名】	骨粗鬆症治療剤	
効能・効果	閉経後骨粗鬆症	
用法・用量	通常、バゼドキシフェンとして、1日1回 20mg を経口投与する。	
禁忌	①深部静脈血栓症、肺塞栓症、網膜静脈血栓症等の静脈血栓塞栓症のある患者又はその既往歴のある患者 ②長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)にある患者 ③抗リン脂質抗体症候群の患者 ④妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦 ⑤本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	-	
副作用	<b>重大な副作用</b> 静脈血栓塞栓症 <b>その他</b> 線維嚢胞性乳腺疾患、便秘(1～5%未満)など	

(薬品名)	ランピオンパック	市販直後調査 平成 22 年 11 月～平成 23 年 5 月
(英名)	LAMPION Pack	
(規格・含有量)	1シート(1日分)中 以下を含有 (タケプロンカプセル 30mg 2カプセル) (アモキシシリンカプセル 250mg 6カプセル) (フラジール内服錠 250mg 2錠)	
(一般名)	ランソプラゾールカプセル、日本薬局方アモキシシリンカプセル、日本薬局方メロニダゾール錠	
(メーカー名)	武田薬品工業	
【薬価収載日】	2010年11月	
【薬価】	551.60円/1シート	
【薬効コード】	876199	
【薬効分類名】	抗生物質製剤	
効能・効果	<適応菌種> アモキシシリン、メロニダゾールに感性のヘリコバクター・ピロリ <適応症> 下記におけるヘリコバクター・ピロリ感染症 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃	
用法・用量	プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合 通常、成人にはランソプラゾールとして1回30mg、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びメロニダゾールとして1回250mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。	
禁忌	①タケプロン、アモリン及びフラジールの成分に対する過敏症の既往歴のある患者 ②アタザナビル硫酸塩を投与中の患者 ③伝染性単核症のある患者 ④高度の腎障害のある患者 ⑤血液疾患のある患者(特発性血小板減少性紫斑病の患者を除く) ⑥脳、脊髄に器質的疾患のある患者 ⑦妊娠3ヵ月以内の婦人 原則禁忌:ペニシリン系抗生物質に対する過敏症の既往歴のある患者 併用禁忌:アタザナビル硫酸塩(レイアタツツ)	
相互作用	<b>他剤作用減弱</b> テオフィリン イトラコナゾール ゲフィチニブ <b>他剤作用増強</b> タクロリムス水和物 ジゴキシシン メチルジゴキシシン フェニトイン ジアゼパム アルコール リトナビル ワルファリン <b>他剤副作用増強</b> ジスルフィラム	
副作用	<b>重大な副作用</b> アナフィラキシー反応、ショック、アナフィラキシー様症状、汎血球減少、無顆粒球症、溶血性貧血、顆粒球減少、血小板減少、貧血、中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、間質性肺炎、間質性腎炎、急性汎発性発疹性膿疱症、急性腎不全等の重篤な腎障害、偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎、肝機能障害、黄疸、(長期投与により)末梢神経障 <b>その他</b> 頭痛、下痢、AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇など	

## 削除医薬品通知

●4月1日より

乾燥酵母エビオス

削除

## 適応追加通知

注射用プロスタジン 20	<p><b>陰茎海綿体内投与 勃起障害の診断</b></p> <p>本品 1 パイアル(アルプロスタジル 20<math>\mu</math>g)を生理食塩液 1mLに溶かし、通常、成人 1 回量アルプロスタジルとして 20<math>\mu</math>gを陰茎海綿体へ注射する。</p>
ハーセプチン注射用 60・150	<p><b>HER2 過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌</b></p> <p>HER2 過剰発現が確認された転移性乳癌には A 法を使用する。HER2 過剰発現が確認された乳癌における術後補助化学療法には B 法を使用する。HER2 過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌には他の抗悪性腫瘍剤との併用で B 法を使用する。</p> <p><b>A 法</b> 通常、成人に対して 1 日 1 回、トラスツズマブとして初回投与時には 4mg/kg(体重)を、2 回目以降は 2mg/kg を 90 分以上かけて 1 週間間隔で点滴静注する。</p> <p><b>B 法</b> 通常、成人に対して 1 日 1 回、トラスツズマブとして初回投与時には 8mg/kg(体重)を、2 回目以降は 6mg/kg を 90 分以上かけて 3 週間間隔で点滴静注する。</p> <p>なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2 回目以降の投与時間は 30 分間まで短縮できる。</p>
メロペン点滴用パイアル 0.5g	<p><b>一般感染症</b></p> <p>通常、成人にはメロペナムとして、1 日 0.5~1g(力価)を 2~3 回に分割し、30 分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、<b>1 回 1g(力価)を上限として、1 日 3g(力価)まで増量することができる。</b></p> <p>通常、小児にはメロペナムとして、1 日 30~60mg(力価)/kg を 3 回に分割し、30 分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1 日 120mg(力価)/kg まで増量することができる。ただし、成人における 1 日最大用量 3g(力価)を超えないこととする。</p>
エクザール注射用 10mg	<p><b>ランゲルハンス細胞組織球症</b></p> <p>ランゲルハンス細胞組織球症に対しては、通常、ビンブラスチン硫酸塩として 1 回 6mg/m<sup>2</sup>(体表面積)を、導入療法においては週 1 回、維持療法においては 2~3 週に 1 回、静脈内に注射する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p>

## 震災に伴う薬品変更について

災に伴う影響で、以下の薬品に関して代替品に切り替える可能性があります。  
切り替え時期は追って連絡させていただきます。

代替医薬品	従来採用医薬品
HMG「コーワ」75注用 (興和デバ)	HMG 注テイゾー75
オキシシン注射液 5 単位 (富士製薬)	アトニンO注 5 単位
テストノンデポー筋注用 125mg (持田製薬)	エナルモンデポー筋注 125mg
HCG モチダ筋注用 3000 単位 (持田製薬)	ゴナトロピン筋注用 3000 単位
HCG モチダ筋注用 5000 単位 (持田製薬)	ゴナトロピン注用 5000 単位
ゴナールエフ皮下注用 75 (メルクセローノ)	ゴナピュール注用 75
プロスタット錠 25mg (日本新薬)	プロスターール錠 25mg
パルタン M 注 0.2mg (持田製薬)	メチルエルゴメトリン注 0.2mg
エバミール錠 1.0 (バイエル)	ロラメット錠 1.0